

中国朝鮮族言語教育と民族意識に関する調査：延辺大学の事例の分析から

全，成君

九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻：博士課程1年

<https://doi.org/10.15017/7374728>

出版情報：国際教育文化研究. 5, pp.67-79, 2005-06-30. Comparative and International Education, Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



中国朝鮮族言語教育と民族意識に関する調査 —延辺大学の事例の分析から—

全成君

I はじめに

本論文は筆者が2004年9月に中国朝鮮族の民族大学—延辺大学で行った言語と民族意識に対する質問紙調査の一部結果とその結果に基づいた分析である。

今回の調査対象としては、中国延辺大学に通っている朝鮮族学校教育を経験した朝鮮族学生と漢族学校教育を経験した朝鮮族学生 300 名を調査対象とした。そのうち、民族学校経験者は 200 人で漢族学校経験者は 100 人である。調査対象 300 人のうち 249 人から回答を得て、回収率は 83%である。調査の内容は、主に回答者の言語経験、民族経験、民族意識に関する質問で構成している。

本論文では主に教育状況と民族意識に関する質問に対する回答を比較し、その回答を分析することになっている。

II 調査内容と結果分析

1、問1：あなたの心の中で一番強く認識しているのはどのような自分ですか。

この問題に関しては、248人が回答し1人が無回答である。この問題で分かったことは以下の2点である。i) 両方の回答者の大多数が「中国人」という認識と同時に自分の民族帰属を認めている。「朝鮮族というよりむしろ中国人」と答えた者が前者では79人(43.9%)、後者では29人(50%)、「中国人であるし、朝鮮人でもある」と答えた回答が前者では83人(46.1%)、後者では27人(46.6%)となっている。ii) この問題で両グループの違いを一番表しているのは、「中国人というより、むしろ朝鮮族」という回答である。「中国人というより、むしろ朝鮮族」と答えた者が前者では18人(10%)で、後者の2人(3.4%)を上回ると点も注目するべきだと考えられる。

この調査結果で分かるように、言語状況によって自己に対する認識に違いが現れている。すなわち、民族学校経験者は漢族学校経験者よりも民族を優先的に考える者が多いのである。これに対して、漢族学校経験者は民族より国家を優先的に考える者が多いのである。

表－1 教育状況と自己認識に関する比較表

		朝鮮族と 言うより、むしろ 中国人	中国人と 言うより、むしろ 朝鮮族	中国人であ るし、朝鮮 人である	合計
朝鮮族学 校	人数	79	18	83	180
	教育状況の%	43.9%	10.0%	46.1%	100.0%
漢族学校	人数	29	2	27	58
	教育状況の%	50.0%	3.4%	46.6%	100.0%
小漢族校、 中朝校	人数	3		2	5
	教育状況の%	60.0%		40.0%	100.0%
小朝校、中 漢校	人数	3		2	5
	教育状況の%	60.0%		40.0%	100.0%
合計	人数	114	20	114	248
	教育状況の%	46.0%	8.0%	46.0%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

2、問2：朝鮮族の発展について、以下であてはまるものを選んでください。（多数選択可）

この問題に関しては、248人が回答し1人が無回答である。答えは表－2が示すとおりである。この回答から分かることは民族学校経験者と漢族学校経験者の回答に違いがあることである。朝鮮族学校経験者の場合は、「民族経済を優先的に発展させるべき」という回答が62人(34.4%)で一番多く、漢族学校経験者の場合は、「民族教育を優先的に発展するべき」という回答が20人(34.5%)で一番多い。

表－2 教育状況と民族発展に関する比較表

		民族経済を 優先的に 発展させる べき	民族伝統、 民族性を優 先するべき	民族政治地 位を優先上 げるべき	民族教育を 優先的に 発展させる べき	他	合計
朝鮮族学 校	人数	62	35	31	43	9	180
	教育状況の%	34.4%	19.4%	17.2%	23.9%	5.0%	100.0%
漢族学校	人数	14	14	8	20	2	58
	教育状況の%	24.1%	24.1%	13.8%	34.5%	3.5%	100.0%
小漢族校、 中朝校	人数	1	3		1		5
	教育状況の%	20.0%	60.0%		20.0%		100.0%
小朝校、中 漢校	人数	2		1	2		5
	教育状況の%	40.0%		20.0%	40.0%		100.0%
合計	人数	79	52	40	66	11	248
	教育状況の%	31.9%	21.0%	16.1%	26.6%	4.4%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

3、問3：韓国と中国のゲームを見たとするならばあなたはどのチームを応援しますか。

この問題に関しては、247人が回答し2人が無回答である。表－3が示したように全体的に「中国」と回答した者が多く、両方とも80%を超えている。しかし、「韓国」と回答した者のうち民族学校経験者の20人(11.2%)が漢族学校経験者の4人(6.9%)を超えている点もこの問

題に対する回答の特徴である。

表－3 教育状況とゲーム感の比較表

		中国	韓国	他	合計
朝鮮族学校	人数	149	20	10	179
	教育状況の%	83.2%	11.2%	5.6%	100.0%
漢族学校	人数	50	4	4	58
	教育状況の%	86.2%	6.9%	6.9%	100.0%
小漢族校、中朝校	人数	4	1		5
	教育状況の%	80.0%	20.0%		100.0%
小朝校、中漢校	人数	5			5
	教育状況の%	100.0%			100.0%
合計	人数	208	25	14	247
	教育状況の%	84.2%	10.1%	5.7%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9－10月）

4、問4：あなたは朝鮮族としての民族言語、文字を知ることをどう思いますか。

この問題に関しては、248人が回答し1人が無回答である。この回答から分かるように、一貫して民族学校を経験したものと一貫して漢族学校を経験した者の間には、民族言語に関する認識に違いが現れている。例えば、民族学校経験者の場合「重要」という回答が156人(86.7%)であるのに対して、漢族学校経験者の場合は38人(65.5%)であり、また「個人の選択によるべき」と答えた者が前者は12人(6.7%)であるのに対して、後者は14人(24.2%)である。

表－4 教育状況と民族言語認識の比較表

		重要	普通	個人の選択 によるべき	重要ではない	合計
朝鮮族学校	人数	156	10	12	2	180
	教育状況の%	86.7%	5.5%	6.7%	1.1%	100.0%
漢族学校	人数	38	5	14	1	58
	教育状況の%	65.5%	8.6%	24.2%	1.7%	100.0%
小漢族校、中朝校	人数	1	2		2	5
	教育状況の%	20.0%	40.0%		40.0%	100.0%
小朝校、中漢校	人数	3		2		5
	教育状況の%	60.0%		40.0%		100.0%
合計	人数	198	17	28	5	248
	教育状況の%	79.8%	6.9%	11.3%	2.0%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9－10月）

5、問5：あなたは中国で朝鮮族としてどの言語が重要だと思いますか。

この問題に関しては、244人が回答し5人が無回答である。この問題の回答からわかることは、民族学校経験者と漢族学校経験者の両方とも、中国の朝鮮族にとって「漢語のほうが重要だ」と認識していることである。このように回答した者はそれぞれ112人(62.9%)、37人

(64.9%)である。

表－5 教育状況と言語重要性に関する比較表

		朝鮮語の 方が重要	漢語の方 が重要	合計
朝鮮族学 校	人数	66	112	178
	教育状況の%	37.1%	62.9%	100.0%
漢族学校	人数	20	37	57
	教育状況の%	35.1%	64.9%	100.0%
小漢族校、 中朝校	人数	2	2	4
	教育状況の%	50.0%	50.0%	100.0%
小朝校、中 漢校	人数	4	1	5
	教育状況の%	80.0%	20.0%	100.0%
合計	人数	92	152	244
	教育状況の%	37.7%	62.3%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

6、問6：もし将来あなたが結婚するならば、希望する結婚相手はどの民族だと思いますか。

この問題に関しては、244人が回答し5人が無回答である。この問題に対する回答の主要な特徴は、民族学校経験者の127人(70.5%)が将来の結婚相手を「朝鮮族」と回答したのに対して、「朝鮮族」と答えた漢族学校の経験者は29人(50%)だという点である。さらに、「民族とは関係ない」の答えに関して、前者が46人(25.6%)、後者が24人(41.4%)という結果も特徴の一つである。

表－6 教育状況と結婚相手に関する比較表

		朝鮮族	漢族	他の民族	民族とは 関係ない	合計
朝鮮族学 校	人数	127	4	3	46	180
	教育状況の%	70.5%	2.2%	1.7%	25.6%	100.0%
漢族学校	人数	29	5		24	58
	教育状況の%	50.0%	8.6%		41.4%	100.0%
小漢族校、 中朝校	人数	2	2		1	5
	教育状況の%	40.0%	40.0%		20.0%	100.0%
小朝校、中 漢校	人数	3	1		1	5
	教育状況の%	60.0%	20.0%		20.0%	100.0%
合計	人数	161	12	3	72	248
	教育状況の%	64.9%	4.9%	1.2%	29.0%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

7、問7：あなたは将来自分の子どもをどの学校へ行かせますか。

この問題に関しては、246人が回答し3人が無回答である。この問題に対する回答からわかるのは次の2点である。i)自分が経験した学校を将来選択する者が一番多い。朝鮮族学校経験者の場合、「朝鮮族学校」の選択が130人(72.6%)で、漢族学校経験者の場合、「漢族学校」の選択が25人(43.9%)である。ii)民族学校経験者で「漢族学校」を選択した者が30人(16.8%)であるのに対して、漢族学校経験者で「朝鮮族学校」を選択した者は21人(36.8%)であった。

表－7 教育状況と将来学校選択の比較表

		朝鮮族校	漢族校	構わない	合計
朝鮮族学校	人数	130	30	19	179
	教育状況の%	72.6%	16.8%	10.6%	100.0%
漢族学校	人数	21	25	11	57
	教育状況の%	36.8%	43.9%	19.3%	100.0%
小漢族校、 中朝校	人数	1	1	3	5
	教育状況の%	20.0%	20.0%	60.0%	100.0%
小朝校、中 漢校	人数	2	2	1	5
	教育状況の%	40.0%	40.0%	20.0%	100.0%
合計	人数	154	58	34	246
	教育状況の%	62.6%	23.6%	13.8%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

8、問8：現在、朝鮮族の言語、文字を知らない人が増えています、これに関してあなたは
どう思いますか。（多数選択可能）

この問題に関しては、249人全員が回答をしている。この問題に対する回答を見ると、一番回答が多いのは民族学校経験者の場合は「民族性が弱くなる」という回答で71人(40.6%)であり、漢族学校経験者の場合は「中国の少数民族として不可避の問題」という回答で30人(51.7%)である。また、「民族性に関係ない」という回答に関して民族学校経験者が33人(18.9%)であるのに対して、漢族学校経験者の回答は19人(32.8%)である。

この問題に対する回答の特徴は言語や文字と民族性の関係に関して、民族学校経験者と漢族学校経験者の考えに差があることである。

表－8 教育状況と民族言語文字認識の比較表

	朝鮮族学校	漢族学校	小漢族校、 中朝鮮族校	小朝校、 中漢族校
民族性が 弱くなる	71 40.6%	13 22.4%	3 60%	2 40%
民族性と 関係ない	33 18.9%	19 32.8%		1 20%
言語教育が 不十分	42 24%	13 22.4%	2 40%	3 60%
少数民族として不可避 問題	68 38.9%	30 51.7%	1 20%	2 40%
個人の発展中不可避の 問題	34 19.4%	18 31%		1 20%
民族政策がまだ改善す るべき	50 28.6%	17 29.3%		1 20%
他	8 4.5%	7 12.1%		1 20%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

9、問9：あなたは現在朝鮮族として民族の歴史と伝統を知る必要があると思いますか。

この問題に関しては、245 人が回答し 4 人が無回答である。この問題に対する回答の最も大きな特徴は、民族学校経験者と漢族学校経験者の間の民族の歴史と伝統の対する認識の差異である。例えば、民族の歴史や伝統に関して「絶対知る必要がある」という回答は、民族学校経験者が 129 人(72.9%)であるのに対して漢族学校経験者は 31 人(53.5%)である。「個人の要求に任せるべき」の回答も前者が 45 人(25.4%)であるのに対して、後者は 26 人(44.8%)である。

これらの結果からわかることは、漢族学校経験者が民族学校経験者より民族の歴史や伝統の知識に関して必要性がないと考えていることである。

表－9 教育状況と民族歴史伝統の必要性に関する比較表

		絶対する必要がある	個人の要求に任せるべき	知らなくても良い	合計
朝鮮族学校	人数	129	45	3	177
	教育状況の%	72.9%	25.4%	1.7%	100.0%
漢族学校	人数	31	26	1	58
	教育状況の%	53.5%	44.8%	1.7%	100.0%
小漢族校、中朝校	人数	1	3	1	5
	教育状況の%	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%
小朝校、中漢校	人数	4	1		5
	教育状況の%	80.0%	20.0%		100.0%
合計	人数	165	75	5	245
	教育状況の%	67.4%	30.6%	2.0%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

10、問10：あなたは朝鮮族が何か誇れるものをもっていると思いますか。（多数選択可）

表－10 教育状況と民族誇りに関する比較表

	朝鮮族学校	漢族学校	小漢族校、中朝鮮族校	小朝校、中漢族校
歴史と文化	81(45.8)	22(37.9%)	2(40%)	3(60%)
伝統と芸術	150(84.7%)	48(82.8%)	3(60%)	5(100%)
料理	58(32.8%)	22(37.9%)	1(20%)	4(80%)
スポーツ	27(15.3%)	13(22.8%)	2(40%)	2(40%)
教育水準と教育機関	40(22.6%)	8(13.8%)	1(20%)	2(40%)
生活水準	16(9%)	10(17.2%)		
将来の発展性	58(32.8%)	18(31%)		1(20%)
言語能力	78(44.3%)	28(48.3%)	1(20%)	1(20%)

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

この問題に対する回答は表－10が示している通りである。この表－10で分かることは次の4つの点である。i) 両グループの回答者が朝鮮族に対して一番に誇りと思うのは民族伝統と芸術であり、民族学校経験者の150人(84.7%)と漢族学校経験者の48人(82.8%)がこのように答えている。ii) 朝鮮族の言語能力と歴史と文化遺産に対しても両グループは高い誇りを持っている。このように答えたのは民族学校経験者が78人(44.3%)、漢族学校経験者が28人(48.3%)である。iii) 教育水準と教育機関を誇りと選択した者は両者とも少ない。iv) 選択者が一番誇りを感じていない項目は朝鮮族の生活水準で選択者は合計26人しかいない。

この回答の結果から、民族学校経験者と漢族学校経験者の回答が非常に近接していることが分かる。

11、問11：あなたは、自国についてどう思いますか。(多数選択可)

この問題に対する回答は表－11が示している通りである。この表－11から分かることは次の点である。回答者が一番多く答えたのは「経済上発展、あるいは発展性がある」という回答であり、民族学校経験者の場合は116人(65.5%)で、漢族学校経験者の場合は35人(60.3%)である。「良い民族政策」という回答については、民族学校経験者の場合は75人(42.4%)で、漢族学校経験者の場合は28人(48.3%)である。

表－11 教育状況と祖国感情の比較表

	朝鮮族学校	漢族学校	小漢族校、 中朝鮮族校	小朝校、 中漢族校
良い政治環境	29(16.4%)	15(25.9%)	1(20%)	2(40%)
良い民族政策	75(42.4%)	28(48.3%)	3(60%)	2(40%)
経済上発展、発展性 がある	116(65.5%)	35(60.3%)	4(80%)	1(20%)
良い文化芸術	90(50.8%)	26(44.8%)	3(60%)	2(40%)
世界平和に貢献で きる	61(34.5%)	11(19.0%)	2(40%)	
安定した環境	75(42.4%)	36(62.1%)	1(20%)	4(80%)
良い政治核心	61(34.5%)	17(29.3%)	1(20%)	4(80%)

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9－10月）

12、問12：あなたが考える民族とは何ですか。(多数選択可)

この問題に対する回答は、表－12が示している通りである。この表－12から分かることは次の点である。回答者が一番多く答えたのは、民族学校経験者の場合は「共通の言語と文字」という回答で125人(70.9%)であり、漢族学校経験者の場合は「民族帰属意識」という回答で31人(53.4%)である。

この回答の特徴を見ると民族学校経験者と漢族学校経験者の回答に差があるのがわかる。また、民族を考えると、大学生は「共通の国家」、「共通の飲食文化」、「共通の地域」は民族とは関係が薄いと考えているのがわかる。

表－１２ 教育状況と民族認識に関する比較表

	朝鮮族学校	漢族学校	小漢族校、 中朝鮮族校	小朝校、 中漢族校
共通の文字	125(70.9%)	30(51.7%)	3(60%)	2(40%)
共通の地域	26(14.7%)	7(12.1%)	1(20%)	
共通の生活習慣	62(35%)	27(46.6%)	1(20%)	1(20%)
共通の血縁	54(30.5%)	27(46.6%)	2(40%)	
共通の飲食文化	23(13%)	10(17.2%)	1(20%)	
共通の歴史	61(34.5%)	16(27.6%)	2(40%)	1(20%)
共通の宗教	11(6.2%)			1(20%)
共通の国家	53(29.9%)	9(15.9%)		1(20%)
共通の祖先	41(23.2%)	12(20.7%)	2(40%)	3(60%)
民族帰属意識	61(34.7%)	31(53.4%)	1(20%)	2(40%)
他	7(4%)	2(3.4%)		

出典：筆者による質問紙調査結果より（２００４年９—１０月）

１３、問１３：現在朝鮮族の学校の数はいくつ減っていますか。あなたはその原因をどう思いますか。（複数選択可）

表－１３ 教育状況と学校減少原因に関する認識の比較表

	朝鮮族学校	漢族学校	小漢族校、 中朝族校	小朝校、 中漢校
人口政策の影響	81(45.8%)	16(27.6%)		
漢族校入学者の増加	140(79.1%)	49(84.5%)	3(60%)	4(80%)
激しい人口移動	111(62.7%)	31(53.4%)	3(60%)	1(20%)
民族教育政策の不足	47(20.6%)	20(34.5%)	2(40%)	2(40%)
民族学校費用が高い	24(13.6%)	4(6.9%)	3(60%)	
教育熱心が弱くなる	34(19.2%)	4(6.9%)	1(20%)	3(60%)
専門学校の増加	13(7.4%)	7(12.1%)	1(20%)	
民族学校の質の低下	46(26%)	21(36.2%)	2(40%)	3(60%)
他	20(11.3%)	15(25.9%)		2(40%)

出典：筆者による質問紙調査結果より（２００４年９—１０月）

この問題に対する回答は表－13 が示している通りである。この回答から分かるように、回答者が一番の原因と考えたのは「漢族学校入学者の増加」という回答であり、民族学校経験者の140人(79.1%)と漢族学校経験者の49人(84.5%)がこのように回答している。この問題に対する回答で民族学校経験者と漢族学校経験者の認識の違いを示す回答は「人口政策の影響」とい

う回答であり、民族学校経験者が 81 人(45.8%)、漢族学校経験者が 16 人(27.6%)である。

この回答の特徴を見ると、大学生は現在の漢族入学者の増加と激しい人口移動を民族教育機関の減少の最も大きな原因と考えている。しかし、「人口政策の影響」という回答に関しては両グループの間に差異が見られる。

1 4、問 1 4：あなたは自分の民族性を両親と比べたらどちらが高いと思いますか。

この問題に関しては、245人が回答し4人が無回答である。この問題に対する回答の特徴は次の2点である。i)「親の方が高い」の回答では民族学校経験者と漢族学校経験者の回答で差がある。前者が69人(39%)であるに対して後者は38人(65.5%)である。ii)「自分の方が高い」との回答でも両者の間には差がある。前者が28人(15.8%)であるに対して後者は1人(1.7%)しかない。

表－14 教育状況 と親との民族性に関する比較表

		親の方が高い	自分の方が高い	変わらない	比べることができない	合計
朝鮮族学校	人数	69	28	57	23	177
	教育状況 の %	39.0%	15.8%	32.2%	13.0%	100.0%
漢族学校	人数	38	1	12	7	58
	教育状況 の %	65.5%	1.7%	20.7%	12.1%	100.0%
小漢族校、中朝校	人数	1	1	2	1	5
	教育状況 の %	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	100.0%
小朝校、中漢校	人数	2		3		5
	教育状況 の %	40.0%		60.0%		100.0%
合計	人数	110	30	74	31	245
	教育状況 の %	44.9%	12.2%	30.2%	12.7%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

1 5、問 1 5：自分と両親との間で民族性、民族に関する考えはどう異なると思いますか。

この問題に関しては、245 人が回答し 4 人が無回答である。この問題に対する回答の特徴は、民族学校経験者と漢族学校経験者の両者の回答に大きな差異がないという点である。しかし、全体で見た場合、民族問題に関する考えで親と異なっていると認める者が 70%に達していることは注目すべき点である。

表－15 教育状況と親との民族問題に関する考えの比較表

		大きな差異がある	差異があるが大きくはない	変わらない	合計
朝鮮族学校	人数	22	104	51	177
	教育状況の%	12.4%	58.8%	28.8%	100.0%
漢族学校	人数	7	32	19	58
	教育状況の%	12.0%	55.2%	32.8%	100.0%
小漢族校、中朝校	人数		2	3	5
	教育状況の%		40.0%	60.0%	100.0%
小朝校、中漢校	人数		3	2	5
	教育状況の%		60.0%	40.0%	100.0%
合計	人数	29	141	75	245
	教育状況の%	11.8%	57.6%	30.6%	100.0%

出典：筆者による質問紙調査結果より（2004年9—10月）

以上の調査結果を要約すると：

一、 朝鮮族学校経験者と漢族学校経験者は異なる言語観を持っている。

朝鮮族学校経験者の多くは朝鮮族として民族言語文字を知ることは「重要なことだ」と認識しているが、漢族学校経験者の多くは「個人の要求に任せるべき」だと認識している。また、朝鮮族学校経験者の多くは今まで受けた教育状況が自分の民族性に対して、「深い影響を与える」と認識しているが、漢族学校経験者の多くは「影響があるが深くではない」と認識している。さらに、朝鮮族学校経験者の多くは民族を考えると最も重要な要因を「共通な文字」と認識しているが、漢族学校経験者の多くは「民族帰属意識」と考えている。最後に、朝鮮族学校経験者の多くは現在の民族文字と言語を知らない人数の増加によって「民族性が弱くなる」と認識しているが、漢族学校経験者の多くは「中国の少数民族として不可避の問題」と考えている。

二、朝鮮族学校経験者と漢族学校経験者は民族文化、歴史に関して異なる経験と理解をもっている。

朝鮮族学校経験者の多くは朝鮮族として民族の歴史と伝統について「絶対知る必要がある」と考えているが、漢族学校経験者の多くは「個人の要求に任せるべき」だと考えている。また、朝鮮族学校の経験者の多くは民族の歴史の知識について勉強したことがあり、歴史の知識を持っているが、漢族学校経験者の多くは勉強したことがなく、歴史についてもあまり知らない。朝鮮族学校経験者の多くは民族伝統、法事について「普通に知っている」が、漢族学校経験者の多くは「大体知っている」。

三、朝鮮族学校の経験者と漢族学校の経験者は自己認識と将来の選択で異なっている。

漢族学校の経験者と比べて朝鮮族学校経験者の多くは自分のことを「中国人というよりむしろ朝鮮族である」と認識している。また、朝鮮族学校経験者の多くは将来の結婚相手に関して「朝鮮族」と考えているが、漢族学校経験者の多くは「民族とは関係ない」と考えている。そして、朝鮮族学校経験者の多くは将来の子どもの学校選択に関して、自分が経験している「朝

鮮族学校」に自分の子どもを通わせたいと考えているが、漢族学校経験者の多くは自分が経験していない朝鮮族学校に自分の子どもを通わせたいと考えている。

四、朝鮮族学校経験者と漢族学校経験者は親との民族意識に関する認識において異なっている。

朝鮮族学校経験者の多くは自分の民族意識と親の民族意識に対して、「自分の方が高い」あるいは「変わらない」と認識しているが、漢族学校経験者の多くは「親の方が高い」と認識している。

Ⅲ おわりに

以上のように朝鮮族学校経験者と漢族学校経験者は言語観、民族歴史・文化、自己認識と将来の選択、親との認識において異なっている。これらの違いは教育環境の違いに原因があると考えられる。朝鮮族学校の初等教育において50年代には「朝鮮語文」の重視の時期、60～70年代の無視の時期、80年代に入ってから再び重視の時期へと変化している。中等教育においては「朝鮮語文」より「漢語文」の方に力を入れている。⁽¹⁾しかし、この変化に関わらず、朝鮮族学校は初等、中等教育全過程に渡って、「朝鮮語文」の科目が設立されており、初等教育に置いて「漢語文」科目を除いてほかの科目の授業言語は朝鮮語で行っている。また、学校言語においても朝鮮語を主に使用している。朝鮮族学校教育によって、朝鮮族学校経験者は中学卒業するとき朝鮮語の読み、聞く、書く能力で相当なレベルに達している。しかし、彼らの漢語のレベルでは上手に使用するレベルまでは達していない。これによって、彼らの日常の言語、人との交流は主に朝鮮語で行われている。この言語状況は朝鮮族学校経験者が民族言語に対して高く依存することになり、民族言語に対して高い認識を持つ原因にもなるし、彼らの結婚相手の選択にも影響を与えていると考えられる。また、朝鮮族学校と漢族学校両方において朝鮮族の歴史の科目は設置されておらず、朝鮮族の歴史は世界歴史のなかに入り、中国朝鮮族の歴史は中国史の一部分に含まれることになっている。⁽²⁾しかし、朝鮮族学校の経験者は「朝鮮語文」授業で民族に関する内容と接することができ、また彼らは中国でほぼ民族語でできている民族歴史と伝統に関する著作などを見ることができ、それを理解することができる。彼らの将来の学校選択についての意識と親に比べて自分の方が民族性が高いという認識は、こうした環境に影響されていると考えている。将来子どもの学校選択で民族学校を選択するという認識もこれらに影響されている。

これに対して、漢族学校経験者は初等、中等教育全過程において朝鮮語を学ぶ機会がまったくなく、学校言語も漢語である。漢族学校教育によって、漢族学校経験者は中学卒業時、漢語については漢族卒業者とほぼ同じレベルに達しているが、彼らの朝鮮語レベルは書く、聞く、読む能力すべてにおいて日常で使用するレベルに達しているものは少ない。また、彼らの日常言語、人との交流はすべて漢語で行われている。この原因は漢族学校経験者の民族言語に対する依存感を薄めることになり、彼らの民族言語に対する認識に影響を与えている。また、彼らの教育環境、日常言語、人との交流に使用する言語の影響は将来の結婚相手を漢族と選択したものが多くなる原因に繋がると考える。漢族学校経験者の状況と言語能力は彼らが学校教育と日常で民族歴史、伝統に関する内容を接する機会がほとんどなく、またほぼ民族語で出来てい

る民族歴史、伝統に関する著作などを見ることができなく、理解することもできなくなる。彼らが親の方より自分の方が民族意識が低いとの回答している理由はこうした状況による。しかし、現在の激しい人口移動、移住した朝鮮族の増加と移住先の民族教育機関の不整備、また、民族居住地の教育機関の激しい減少によって、以前のように一つの民族村に一つの民族学校が整備されている状況は変わってしまった。今回の調査で漢族学校経験者の漢族学校を経験した原因の一番が「附近に民族学校がない」という回答になったのはこうした状況によると考えられる。彼らが将来子どもの学校選択の時、自分が経験することができなかった民族学校も選択したのもこうした状況を反映していると考えられる。

〈注〉

- (1) 小川佳万、2001、『社会主義中国における少数民族教育―「民族平等」理念の展開―』 東信堂。
- (2) 岡本雅享、1999、『中国の少数民族教育と言語政策』 株式会社社会評論社 p.146

Survey of the language education and ethnic consciousness of Chinese Korean minority
from analyzing the instances of Yanbian university

ChengJun QUAN

This paper is the analysis of the result that the author got from the survey of the enquiry about language and ethnic consciousness in Yanbian university(a minority university of China)in Sep.2004.

The interviewees of this survey were 200 Chinese Korean students with experience of the Korean school and 100 Chinese Korean Students with experience of Chinese school. There were 300 students joined this survey. Among 300 students' questionnaires I got 249, and the collect rate was 83%.

The content of this survey is consisted of enquiry relating to language experience, ethnic experience and ethnic consciousness.

This paper aims at comparing the responses to the enquiry about the educational situation and ethnic consciousness, and then analyzing them.

From analyzing the result of the survey it was cleared that:

At first, students with the experience of being educated in the Chinese Korean schools have different view of the language from those with the experience of being educated in the Chinese schools.

Secondly, students with the experience of being educated in the Chinese Korean schools have different experience and understanding to the ethnic culture, history from those with the experience of being educated in the Chinese schools.

Thirdly, students with the experience of being educated in the Chinese Korean schools and those with the experience of being educated in the Chinese schools both have different ethnic consciousness with their parents.

Finally, students with the experience of being educated in the Chinese Korean schools have different self-awareness and future choice from those with the experience of being educated in the Chinese schools.